

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

328号

2018年6月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

朝米首脳会談の行方、東アジアの平和と安定のための会談が今始まる

韓国メディア聯合ニュースは6月5日、朝米首脳会談が6月12日午前9時(現地時間)シンガポールで開催されると報じた。いよいよ世紀の歴史的会談が始まる。世界の耳目はシンガポールの会談場に釘付けになるだろう。1945年8月15日、日本の植民地支配からの解放と同時に南北分断の悲劇が始まり同胞相食む戦争を経て、初めて朝鮮と米国のトップ会談が実現することになった。1953年7月27日の停戦から実に65年目の出来事だ。トランプ大統領は一旦会談中止を発表したが、金英哲(キム・ヨン Chol) 朝鮮労働党統一戦線部長とのホワイト

ハウスでの面談後「シンガポールでの首脳会談を楽しみにしている」と語った。トランプ大統領は金正恩(キム・ジョンウン) 国務委員長からの親書を受け取り、大きな封筒に入った親

書を両手で持って金特使と並んでいる写真が印象深い。会談の開催が確実なことを物語っている。

昨年11月、朝鮮は長距離弾道ミサイル火星15型を試験発射し成功させた。米国本土の主要都市が射程内に入る火星15型の成功は、米国が「交戦中」の朝鮮の核弾頭搭載ミサイル攻撃の脅威が現実味を帯びたことを実感する瞬間であった。

2018年1月1日、金正恩国務委員長は新年辞で「火星15型の成功で、米国は朝鮮半島でこれ以上戦争をすることができない」と語り、平昌オリンピック、パラリンピックへの参加を表明、高位級会談の開催を韓国側に提案した。平昌オリンピックへの参加が実現することに伴い南北の文化交流が再開され、女子アイスホッケー統一チームが決まり、金国務委員長の妹金与正(キム・ヨジョ

ン) 党中央委員会宣伝扇動部第1副部長と金永南(キム・ヨンナム) 最高人民会議常任委員長がオリンピックを参観した。金与正第1副部長は金正恩国務委員長の親書を文在寅大統領に伝達し、近い将来の文大統領のピョンヤン訪問を促したことで、朝鮮半島を覆っていた戦争の暗雲が一気に晴れ、南北の融和ムードが一気に盛り上がりを見せた。

朝鮮の平昌オリンピック参加と特使派遣の答礼として、文大統領は鄭義溶(チョン・ウイヨン) 安全保障室長を団長とする特使をピョンヤンに派遣した。金国務委員長は特使団との会見で、南北首脳会談

を提案し「米国とも話し合う用意がある」と語り、「朝鮮半島の非核化についても話し合う用意がある」と述べ、4月27日、板門店南側の平和の家で第3回南北首脳会談が実現した。会談後、南北

首脳は共同記者会見を開き「朝鮮半島の平和と繁栄、統一のための板門店宣言」を発表した。

4月20日、金国務委員長は4月27日の首脳会談に先立ち、中長距離弾道ミサイル発射実験と核実験を中止し核実験場を廃棄すると言明した。文大統領は金国務委員長の非核化の意思が固いと歓迎し、トランプ大統領もこれを好意的に受け止めた。

朝鮮半島の平和は、世界の平和に直結する問題であることがあらためて示された。朝鮮半島の自主的平和統一が間近に迫っている。南北両首脳は板門店での共同記者会見で「朝鮮半島では戦争はもう起きない」と世界に宣言した。朝米首脳会談はそれを確固たるものにする会談になるだろう。

(鐵)



▲トランプ大統領

▲金正恩委員長

南北首脳会談の感動を分かちあった第25回統一マダン生野 たくさんのご協力、ありがとうございました。

第25回統一マダン生野実行委員長 高銖春(コウ・スチュン)

南北首脳会談の感動と興奮が冷めやらない5月13日(日)、生野区の巽公園において「第25回統一マダン生野」が開催されました。当日は、悪天候の中でしたが、首脳会談の感動を分かちあおうと多くの方々が参加してくれました。

今年、実行委員会は総勢23人で構成しました。そのうち18人が40代前半という、これまでになく若い層が集いました。“25回目の節目を迎える統一マダン生野”というプレッシャーがありながらも、柔軟な発想と強力な実行力で、これまでの慣例や習慣にとらわれないう充実した内容を準備しようと頑張りました。その結果△クラウドファンディングによる資金集め、△ギネス世界記録への挑戦、△看板の一新、△韓国民衆歌手グループ「ソリタレ」とのコラボ企画、△南北大衆歌謡の紹介、△スーパーヒーローショー、△建国高と大阪朝高のOG・OBによる吹奏楽合同演奏、△子どもが1日遊べる空間づくりなど、どの企画もメインとなるような斬新な企画が次々と発案されました。

当日は時間の経過とともにひどくなる悪天候にもかかわらず、会場には多くの同胞や日本の方々が開演を心待ちにしていました。“統一”を主テーマとした唯一のマダン行事で、南北首脳会談の感動を分かちあいたいという多くの人々の気持ちが観覧席に充満していました。

残念ながら悪天候のために、いくつかの演目が進行できなくなりながらも、△板門店宣言を支持する青年・学生のアピール、△同胞青年有志によるサムルノリ、△子どもも大人も楽しめたヒーローショー、△感動的な場面を演出したブラスバンド合同演奏などが披露され、参加者たちから大きな拍手が送られました。

特に統一マダン生野では13年ぶりのコンサートとなる韓国民衆歌手グループ「ソリタレ」が登

壇すると、会場の雰囲気はひときわ高まりました。平昌オリンピックや南北首脳会談の場で何度も流されたアリランは、ソリタレと実行委員会メンバーを中心とした在日同胞とのコラボで披露され、在日同胞が祖国の自主的平和統一を想う気持ちを込めた歌詞は、多くの参加者の共感を呼びました。またギネス記録への挑戦企画は、悪天候のために予定していた615人以上という目標は達成することができませんでしたが、朝鮮半島が描かれたナプキンを上に向かって投げながら、板門店宣言の履行を通じた祖国統一を1日も早く実現しようという想いをひとつに集めることができました。

山口照美生野区長や尾辻かな子衆議院議員も激励に駆けつけてくださりました。しかし、会場全体が沼地のようになる中、漏電の危険性が高まり、電気

の供給ができなくなったため、やむなくエンディングのソリタレによるコンサートは中止せざるをえなくなりました。

そのような中であっても、最後まで見守ってくださった参加者の皆さんや出店で協力してくださった方々には本当に感謝します。

また店頭でのポスター掲示や賛同広告・賛同カンパ、クラウドファンディングへの支援、SNSでの拡散など今年も各方面にわたり、たくさんの方々のご協力をいただきました。実行委員会を代表して心より感謝いたします。

この記事を執筆する前には、すでに今年2回目の南北首脳会談も電撃的に行われました。今後もさらに南北を往来する人は拡大するでしょう。平和と統一の時代は未来の話ではなく、現在すでに始まっているのです。

統一時代の発展をともに共有しながら、また来年の第26回統一マダンでお会いしましょう。

皆さん、本当にありがとうございました。



▲主催者挨拶を行う高銖春実行委員長

第25回統一マダン生野では、初めてヒーローショーと建国・朝高吹奏楽部OB・OGによる吹奏楽演奏が発表されました。それぞれ出演した方々の感想文を掲載します。

練習ごとに自身の成長を実感した 柳秀根(ユ・スグン)

今回、私は第25回統一マダン生野で朝青の方々と一緒にヒーローショーに出演しました。学生時代から韓青で活動していた私にとっては、第20回目の統一マダンから朝青の方々と合同企画をしていたことについて、すごく記憶に残っています。



▲ヒーローショーに出演した柳秀根氏(右側)

その中でも今回のヒーローショーは、韓青から私だけ出演するという事で、すごく不安もありましたし、緊張しました。しかし、練習の現場では朝青の先輩の方々がとても面倒を見てくださり、韓青の日常活動では、いろいろなアドバイスを受けながら、毎回の練習で自分自身の成長や朝青との連帯につなげていけたと思います。

特に「板門店宣言」を通じた「第2の6・15時代」へと進む情勢の中、この企画に参加できたことを誇らしく思います。また、それ以前にも厳しい情勢の中、在日同胞がたくさん住む地域で韓青と朝青の合同企画を作ってくださいました両組織の先輩の方々に心から感謝します。

今後、私はこの統一マダン生野を通じて、大阪を拠点としたいろいろな団体との交流を深めていきたいと思っています。

建国・朝高OB・OG合同吹奏楽に参加して 南雄大(ナム・ウンテ)

5月13日に開かれた統一マダン生野、僕は建国・朝高OB・OG吹奏楽団として出演させて頂きました。あいにくこの日はものすごい大雨で、正直すぐに中止になるのではないかと考えていま

した。しかし、会場にそのような雰囲気は全くなく、むしろその雨がドラマチックに感じるほど盛り上がっていました。やはり皆、統一に向けた強い熱意をもっているのでしょう。

演奏前に食べた屋台の焼肉の味は、今でも忘れられません。

一生懸命やって、自分なりに楽しみました 趙誠穂(チョ・ソンス)

今回このようなイベントにお招き頂き本当にありがとうございました。

連絡を受けた時はとても嬉しく思い、ぜひ舞台に立ってみたいと思いました。それも今回の舞台ではなんと建国&大阪朝高吹奏楽部のOB・OG達でコラボ演奏をするという企画でした。

今回は金管五重奏でした。自分自身がとても未熟で上手くできるか凄く不安でしたが、とにかく一生懸命頑張って自分なりに楽しんでやろうと決心しました。



▲左側トランペット奏者が南雄大氏

右側2番目のユーフォニウム奏者が趙誠穂氏

統一マダンの当日、予報以上の大雨でした。ですが、皆ずぶ濡れになったにも関わらず、それでも皆が一生懸命準備して、それぞれの公演も頑張りました。雨の中でしたが、無事に終えることができ出演して良かったって思いました。

終わった後「やっぱりアンサンブルは楽しいなあ」とまたやりたいなと思いました。何よりこのような企画を作ってくれた方々に本当に感謝です。とてもいい経験をさせて頂きました。

次回はもっと人数を増やし、今年よりもさらにいい舞台にしようと思っています。楽しい一日を本当にありがとうございました。

光州民衆抗争38周年記念行事に参加して

韓青京都本部委員長 韓成祐(ハン・ソウ)

今年、光州民衆抗争から38周年を迎え、私たちの仲間が韓国政府主催の追悼行事をはじめ光州民衆抗争38周年記念行事に初めて参加しました。今号では記念行事に参加した、韓成祐韓青京都本部委員長の感想文を掲載します。

今回私は、5月17日～20日の日程で「5月精神を継承し、自主統一を達成しよう！光州38周年韓青代表団」として光州に行ってきました。

旧全南道庁や望月堂墓地を訪れるのは2014年の学生協（北側オリニ豆乳事業）歴史紀行以来4年ぶりでしたが、光州市内に滞在し、ゆっくりと見て回るのは初めての経験でした。

現地光州では6・15委員会光州本部の方が帯同してくださり、光州市内をはじめ光州民衆抗争の歴史や現在進行形の運動について教えてくださいました。



▲政府主催の追悼式典参加した韓青代表団
(向かって右側が韓成祐委員長)

光州民衆抗争は38年前の闘いですが、発砲命令を下した責任者の処罰や駐韓米軍の責任、ヘリコプター機銃掃射の問題など未だに明らかにされていない点が少なくありません。そして鎮圧の現場となった旧全南道庁の保存問題はろう城闘争を始めて2年が経過しようとしています。しかし光州にいる間、私は市民の光州民衆抗争に対する敬意と強大な敵に最後まで闘う民衆の決意を感じました。

光州市内は私たちが滞在していた17日～19日にかけて旧道庁に向かう錦南路にステージが設けられていました。錦南路と旧全南道庁は1980年の光州民衆抗争当時、光州市民が軍事独裁反対を求めて闘い、戒厳軍の発砲で多くの人が犠牲

となったまさにその場所です。5・18の期間中は錦南路のステージや旧道庁前の広場で常に市民や学生の集会が行われており、韓青の歴史学習会や映像で見たその場所に自分が立っていることを思うと何とも表現しがたいですが、あらためて光州の長い闘いの歴史を感じました。



▲国内の青年学生と共に光州市内を行進する

4日間の滞在期間中に色々な所を見て回りましたが、5月18日当日に国立墓地で行われた政府主催の追悼式典に参加したことは、とても印象深い出来事でした。翌19日には松汀(ソンジョン)軍空港前で行われた合同軍事演習反対集会と、錦南路で開かれた全国労働者・民衆大会に参加しました。そこでは光州民衆抗争当時の米国の責任、韓米合同軍事演習「マックス・サンダー」で南北の緊張対立を煽る米国政府を糾弾する声が高まっていました。

5・18の時期に光州にある軍空港から飛び立った戦闘機が、米軍と軍事演習を強行する現実に怒りを覚えると同時に、韓国における親米従属体制の根の深さを再認識しました。しかし錦南路に韓国全土から1万人の人が結集した姿はとても心強く、これから国内と連帯し、日本の地で反米自主化闘争を力強く展開する決意を新たにすることができました。

光州民衆抗争の真相究明と責任者処罰、 南北首脳会談の成果・意義を共有する 光州民衆抗争38周年関西集会

1980年5月の光州民衆抗争から38周年を迎え、韓統連関西協議会主催で「光州民衆抗争38周年 板門店宣言を支持し、朝米首脳会談を成功させよう！在日韓国人関西地域集会」が5月20日（日）、PLP会館（大阪市北区）で開かれた。

集会では民衆儀礼が行われた後、金隆司（キム・ユソク）韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「光州民衆抗争から38年を迎えます。しかし、38年が経過しても、光州民衆抗争の真相は未だに究明されていない。なぜなのか、それは全斗煥をはじめ積弊勢力が現在も力を持っているからであり、積弊清算は光州民衆抗争の真相究明につながる。私たちは継続して積弊清算を訴えていこう」と語った。



▲情勢講演を行う朴明哲組織局長

次に、4月27日の南北首脳会談の映像資料が上映された後、朴明哲（パク・ミンチョル）韓統連中央本部組織局長が情勢講演を行った。

朴局長は光州民衆抗争の意義について「韓国を支配している外勢（米国）を追い出さなければ民族の自主も統一も成し遂げられないことを鮮明にした」と指摘した。そして、4月27日の南北首脳会談と「板門店宣言」については「板門店宣言の本質は、南北の共同繁栄と自主統一」と述べながら、「板門店宣言」の支持・履行を訴えた。

情勢講演終了後は質疑応答が行われ、続いて、趙暎和（チョ・ヨンファ）韓青生野北支部委員長から、初めて韓国での光州民衆抗争国家慰霊祭などに参

加した韓青代表団の活動報告とカンパ要請が行われた。

その後、各団体代表による決意表明と決議文の朗読・採択が行われ、最後に、崔孝行（チェ・ヒョハ）韓統連兵庫本部代表委員が閉会辞を述べ、集会は終了した。

学生が先頭に立って 板門店宣言を支持・実践する 学生協第28期定期総会

在日韓国人学生協議会（学生協）が5月27日（日）、KCC会館（大阪市生野区）で「第28期定期総会」を開催した。

総会では金里紗（キム・リサ）会長が主催者挨拶を行い、朴明哲韓統連中央本部組織局長、金隆司韓統連大阪本部代表委員が激励挨拶を行った。



▲主催者挨拶を行う金里紗会長

議案審議では、第27期活動総括に続き、▲板門店宣言の支持・実践▲学習会の定期開催▲在日同胞学生団体との連帯などからなる第28期活動方針を満場一致で採択した。また、金昌五（キム・チャノ）韓統連大阪本部副代表委員が情勢解説した。

役員改選では、新会長に金里紗前会長、丁悠瑪（チョン・ユマ）前副会長（ともに再任）をそれぞれ選出した。

金新会長は就任挨拶で、平和と繁栄に向かう朝鮮半島情勢を揶揄（やゆ）する日本のメディアに触れながら、「差別に苦しむ状況を打開するには、学習と同胞同士の出会いが必要」と強調。歴史学習会を定期開催するとともに「統一運動の先頭に立ち、板門店宣言を支持・実践する」と決意を述べた。終了後、レセプションが開かれた。

◆◆書籍紹介◆◆

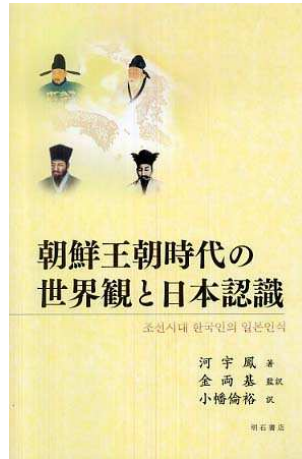
朝鮮王朝時代の世界観と日本認識

河宇鳳 (ハ・ウボン) 著／明石書店／6480円

本書は朝鮮時代、知識人をはじめとする各階層の朝鮮人が持つ世界観、そしてその範疇(はんちゆう)にある対日本(及び対馬)認識について考察した研究書である。本書によると朝鮮人は文化的優越意識に基づく「自我」を形成し、日本をはじめとする諸国を夷狄(いてき)、つまり「他者」と認識してきた。そしてこの対日本認識は朝鮮時代を通じて固定化したのだという。

具体例として示されるのが朝鮮時代の対日使行員(朝鮮通信使)である。前期日本使行では安定的な国際情勢のもとで朝日間の円滑な善隣外交が展開された一方、後期は東アジア体制の再編期を迎える中で朝鮮と日本の政治事情が逆転現象を見せるようになり、「義」を共通理解項とした安定性重視の朝日関係が築かれた。こうした政治状況は使行員の対日本認識にも影響を与える。前期使行員の開放的な視点、進取的な観点に基づく日本認識に対して、後期使行員は侵略戦争のトラウマから観念的な自負心が強化されることとなり、殊更に日本を野蛮視する傾向が現れた。

18世紀に入り、清及び日本との関係が安定すると朝鮮では狭小な観念論から脱皮し、実学をはじめとする自由で開放的な学問が発展する。特に



近畿南人派における「日本学」は日本に対する夷狄観を或る程度克服した客観的な対日本認識を有していた。

一方で日本人の対朝鮮認識はどうかというと、その根底にはいわゆる「日本書紀史観」が根付いており朝鮮蔑視観を有し続けていた。相互認識のズレを克服せぬまま近代以降、両国がどのような関係を持ったかについては周知の通りである。本書では補足的に近代以降の相互認識についても言及しているが近代化、そして日本への憧憬から日本夷狄観を克服した開化派官僚と、伝統的な日本夷狄観をベースに激しい反日思想を有した東学の始祖、崔濟愚(チェ・ジユ 1824-1864)の姿はあまりにも対照的である。それは「朝鮮人」の対日本認識における相克(そうこく)であると同時に、近代における朝日関係の断絶を象徴するようでもある。

今、統一時代を迎える朝鮮半島と日本。平和と繁栄の時代を共に築くためには何が必要か? 「まず相手の心と実情を知ってこそ、正しい交際と外交がある(本書 p10 より)」。両国の善隣外交に尽力した申叔舟(シン・スチウ 1417-1475)と雨森芳洲(アメノリ・ホシユウ 1668-1755)は偶然にも生前同じ主旨の言葉を遺している。(権)

◆行事案内◆

南北・朝米首脳会談支持・歓迎！平和と統一のための6・24集会

日時：6月24日(日)午後1時30分 受付/午後2時 開会
 場所：KCC会館(地下鉄“今里駅”下車徒歩7分)
 内容：情勢講演 講師：金昌五(金・チャウ) 韓統連大阪本部副代表委員
 質疑討論 他
 参加費：500円
 主催：在日韓国民主統一連合(韓統連)大阪本部
 TEL06-6711-6377/FAX06-6711-6378



編集後記

6月12日、歴史上初めての朝米首脳会談が開かれます。首脳会談の結果、今後の展望については6月24日の集会で皆さんと共有したいと思います。ぜひ参加してください。(ソン)

